

氏名	杉 原 徹
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1772 号
学位授与の日付	昭和62年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	肝障害時における胃粘膜障害に関する研究 第一編：ラットにおける基礎的検討 第二編：ヒト肝硬変症における臨床的検討
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 木村郁郎 教授 粟井通泰

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第一編：門脈狭窄ラットと肝障害ラットを作成し、門脈圧亢進状態および肝実質障害が胃粘膜に及ぼす影響を胃粘膜防御機能の面から検討した。門脈圧亢進状態および肝障害時の胃粘膜において胃粘膜血流（BF），胃粘膜 potential difference（PD），胃粘膜内 prostaglandin E_2 （ PGE_2 ）の低下を認め、胃粘膜防御機能の低下が推測された。また、BF、PD、 PGE_2 の低下に門脈圧亢進状態が関与していることが示唆された。しかし、肝障害時のBF、PDの低下は門脈圧亢進状態以外に肝実質障害による影響を受けていると考えられた。

第二編：ヒト肝硬変症における胃粘膜病変発生要因について明らかにするため、肝硬変症患者を対象として門脈圧亢進状態および肝障害の程度との関連について胃粘膜病変の有無と比較検討した。さらに内視鏡下にBF、PDを測定し、生検材料にて PGE_2 を測定した。胃粘膜病変の発生率はPTPによって測定した門脈圧の高い例に高い傾向にあったが、また肝障害の重症例ほど高頻度であり、門脈圧亢進状態以外の因子も大切であると思われた。肝硬変症患者のBF、PD、 PGE_2 は低下し、肝硬変症では胃粘膜防御機能が低下していると考えられた。さらに、BF、PDの低下に PGE_2 の低下が関与している可能性があると思われた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は先ず門脈狭窄ラットと肝障害ラットを作成し、門脈圧亢進状態および肝実質障害が胃粘膜に及ぼす影響を胃粘膜防御機能の面から検討し、胃粘膜血流、胃粘膜potential difference、胃粘膜内 prostaglandin E_2 の低下を認め、胃粘膜防御機能の低下を明らか

にし、さらにヒト肝硬変症における胃粘膜病変発生についても同様の機構の存在することを明らかにした価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。